

都市デザイン研・空間計画研、合同顔合わせ会議

14名多士済々、一堂に会して新年度スタート

4月11日、本郷の北沢教授室において、都市デザイン研究室に入学・進学した修士1年生・博士1年生による初顔合わせ会議が行われた。柏の新領域創成科学科・空間研究室（北沢研究室）に入学した修士1年生4名も合同参加して、新入生合計14名全員がそろった。会議後は、9階院生室で簡単な歓迎飲み会。翌日、新入生10名は早々と座席を決めて、研究室生活を本格スタートさせた。



●●●新入生・清冽コメント集●●●

マガジン編集部では、アンケートを配布して入学にあたっての抱負を記述してもらった。同時に、『都市デザイン研マガジン』について聞いたところ、6名が「読んでいた」と回答。また、「紙面デザインについて改善を」という意見が2名からあった。（五十音順、()は出身。●=デザイン研、■=空間研）

●石井宏典（都市工学科）「少年老い易く学成り難し」の言を肝に銘じ、2年間精いっぱい学びたい。就職組に負けないよう、自分の生活と意見に責任を持つ。

●伊藤雅人（都市工学科）内部進学ですが、外部からの人が多いので、学部の時にはなかった刺激があると思いき楽しみにしています。互いに切磋琢磨していけたらと思います。

■任智顯 イム・ジヒョン（日本女子大学・家政学部住居学科）様々な考え方をもちた多くの人びとと交流したい。そこでお互いに刺激を受けながら自分を発展させていきたい。

●ウィチエンプラディット・ポンサン（都市工学科）学部と大学院の違いに少しとまどいました。その自由度を利用し、将来に直接関係しそうな分野のみならず、色々学んでいきたいと思ひます。

●奥田紘子（慶応大学・環境情報学部）これまででは都市の中の緑地に着目して都市の勉強をしてきました。皆さんから刺激をうけてより広い視野で研究していきたい。

●塩澤諒子（日本女子大学・家政学部住居学科）環境も変わってメンバーも新しくなったのでまだ慣れていませんが、早く皆さんと仲よくなりたいです。

■砂川亜里沙（日本大学・法学部政治経済学科）国際政治専攻だったため新しい分野でどれだけスペシャリストに近づけるかわくわくしています。

●筒井直央（都立大学・工学部建築学科）色々なバックグラウンドを持った人が沢山居て感激しています。沢山交流して視野を広めていきたいです。

●D1中島伸（筑波大学大学院・環境科学研究科）知的刺激が豊富な研究室でのこれからの研究・活動に大いに期待しています。

■平林直（早稲田大学芸術学校・建築学科）今まで2年間働きながら勉強して来ました。本年は大学院一本で勉強に集中出来ます。その分『時間』を大切に使いながら、悔いのない2年間を送りたいです。

●ファズリ・ビンズビ（イングランド中央大学）人が多い研究室の熱気のなかで、しっかり地に足のついた仕事場を確保しようと思っています。

■松尾真子（東京理科大学・工学部建築学科）様々な分野から来た人、様々な国の人、様々な考えをもつ人達に触れられながら自分を磨いていきたいです。

●横田俊介（工学院大学・建築都市デザイン学科）入学してから数日ですが、すでに魅力溢れる学習環境を目の当たりにしています。都市デザインは、ひとの暮らしをデザインすることと捉える。多角的な視点で夢のある構想を持つ力を身につけたい。

●吉田拓（都市工学科・花木研究室）自分の興味あることに積極的に関わっていこうと思う。短い2年間を積極的に使いたい。また、今までの自分のバックグラウンドも活かしたい。

喜多方報告書、大部 300 ページ・オールカラーで完成

喜多方プロジェクトチームは、福島県からの受託研究「民官学の連携した喜多方まちづくりの実践」2005年度報告書を先月中旬完成。院生5名（永瀬節治D2、柴田直、鈴木智香子、早坂勝一M2、鄭一止M1）が分担して執筆して、「その2」（本編。「その1」は2004年度版）「その3」（別冊）、各々の概要版、計4冊を仕上げた。印刷時、他プロジェクトの冊子印刷と重なり、トナー不足に。印刷作業は、9階、10階、2階を転々として何とか完了した。

（写真：鈴木M2、報告書の厚みを強調）





■北欧 BF 事例の発表をする柴田 M2

京浜臨海部再生研究会 中間報告会開催

桜満開の去る3月30日、横浜 BankART1929yokohama にて、京浜臨海部再生研究会の2005年度中間報告会が行われた。旧第一銀行横浜支店である歴史的建造物を活用した荘厳なホールに、研究会メンバー、横浜市を中心とした約70人が集まり、発表を行った。

東京大学 COE、京浜臨海部アクションスタディメンバーによる、環境（廃棄物処理）、歴史資源、ストック、土壌汚染、建築意匠といった多様な側面からの研究及び、欧米の先進事例研究が発表された。当

研究室からは、OB 黒瀬武史（本年3月修了）が北米ブラウンフィールド（以下 BF）再生制度、方法・技術、事例の発表、M2 柴田直が北欧

の BF 再生事例の発表を行った。また、鈴木伸治横浜市立大助教授（元・研究室助手）らを中心とした戦略研究チームにより、京浜臨海部守屋町地区・末広町地区の提案が示され、これらを元に熱い議論が交わされた。

その後はホールを模様替えして懇親会。参加学生の皆様、グラス洗いまで手伝っていただいて、ごめんなさい。このご恩は、今年度も熱い京浜プロジェクトにて。
(野原卓助手)

■新 M2 三分、新天地 2 階へ 4 名 くじ引き席がえに悲喜こもごも■

4月にM2となる院生は、9階から10階に「進学」するのが毎年の恒例。ところが、2005年度に修了した院生6名に対して、新M2は9名。10階のキャパシティは明らかに不足していた。仲良し女子院生の「そろって10階へ」の懇願むなしく、「定住」志向の強いドクター院生の意向を前に、「分断」は不可避となった。同時に、昨年度比トータルで4名増員という事態から、2階院生室を他研究室と共同使用する方針も固まった。

4月5日に行われた新M2協議では、恨みっこなしの民主的・くじ引きで希望席を選び、10階4名、9階1名（残留）、2階4名がそれぞれ決定した。2階に引っ越すこととなった院生の一人は、「たしかに皆と離れて少しさびしい。けれども、新天地だと思ってやるしかないでしょ。他の研究室との交流も楽しみにしたい」とつとめて笑顔で語った。一方10階では、一部模様替えを実施。窓際の席がより開放的な配置となった。

(写真上：2階行きの引越し院生、どこか物憂げ／

写真下：2階共同院生室。物少なく床が目立つ)



▼「京都まちなかこだわり住宅」参戦レポート▼

生粋の東京人・野原が京都のまちなかに乗り込んできました。D1馬場さんが3月までお勤めであった京都市景観・まちづくりセンター及び都市居住推進研究会主催の表題コンペに参加。二段階方式で、プロポーザルで絞った5組が具体的な敷地設計を行うもの。都市再生モデル事業に採択されているこのプロジェクトは、学習会やワークショップも提案者が参加してから設計する一風変わったもの。設計は、「うつろひの家」と称して、軽やかな気配の垣間見える住まい方を提案。最終審査では、巽和夫京大名誉教授他6名の審査の下、田辺康弘（旧M2）作成の秀作模型の力を活かせず、最終投票で1票に泣き次点に（残念！）。最優秀案はモデルハウス化されます。
(野原助手)



好評・江口 T シャツ、予約受付中！

追いコンで修了生にプレゼントされた、江口久美 M2 デザインの 14 号館 パノラマ・T シャツ（前号で報道）、増刷のうえ希望者に頒布することが決定しました。希望者は、サイズ（S=155cm 前後、M=165cm 前後、L=175cm 前後、XL=185cm 前後）を明記のうえ、下記まで。締め切りは 4 月 20 日。
kumi@ud.t.u-tokyo.ac.jp (M2 江口) ※価格は 1000 円前後を予定。

編集後記

「少年老い易く学成り難し」。もはや到底少年ではなく、「而立」が現実感のある年齢になっても、いや、なってきたからこそ、だろうか、この言葉はちくりとくる。現代は生涯学習の時代、喜寿にしてなお向学心止まぬ酒井前編集長のようなパワフルな人も出てきた。それでも、長々しきモラトリウムに、何らかのかたちで結節点を結ばねばならぬ。新入生アンケートの回答繰りつつ、浮薄に流れて実りなく過ぎ去った自身の修士課程1年度目を猛省。新年度で仕切り直し、と土俵でつぶやいてみる。(坂内)